

第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成29年11月9日(木) 5校時
学 級 1年B組(男子12名、女子15名、計27名)
指導者 教諭 佐々木久美子

1. 単元名 故事成語を寸劇にして伝えよう！
教材名 矛盾 「韓非子」より(東京書籍)

2. 単元について

(1) 教材観

本単元では、故事成語の中から「矛盾」を学習する。故事成語の成り立ちや現代での意味・用法などを学んだ上で、自分の選んだ故事成語について、それが当てはまりそうな日常生活の出来事を結び付けて考える。それを基にして、故事成語を寸劇にして発表するという言語活動を位置付けた。この言語活動を通して、現代に生きる古典には様々な作品があることを知らせるとともに、相手を意識した発表ができるようになることを目指している。

また、教科書に掲載されている故事成語以外の言葉も、副教材などを用いて取り扱う。普段、耳にする言葉が、実は故事成語だったことに気付くことで、古典の世界と現代の世界のつながりを実感させ、古典に親しむ態度を育てていきたい。中学校での古典学習の導入であることを考慮し、現代語訳から内容を考えさせるようにし、古典学習への抵抗感を減らしていきたいと考える。

(2) 生徒観

生徒は、小学校第4学年でことわざや故事成語について学び、第5学年と第6学年においては、古文や漢文のだいたいの意味を知り、言葉の響きやリズムを味わいながら音読する学習をしてきている。本単元をそれらの学習と結び付け、中学校での古典学習の入り口として抵抗なく学習に入っていけるようにしたい。

本学級の生徒は、自分の意見を持ち、活発な意見交換をすることができる。しかし、自分の意見を発表する場面になると、なかなか大きな声で発言できない生徒も少なくはない。今年4月に行われた岩手県中学1年生新入生調査では、「書くこと」や「読むこと」の項目ではおおむね県平均を上回る結果なのに対して、「話すこと・聞くこと」の項目では県平均を下回る項目が多く、特に「目的や意図に応じて話すことができる」では、岩手県平均を10.3ポイント下回っている。

これまでの学習において、1学期には「話し方はどうかな」の教材で、話すスピードや抑揚の必要性などを学習した。2学期では、日常生活での自分の体験や友達の体験を絡めて、順序立てて具体的に説明する学習を行った。この学習をとおして、構成メモをもとに、順序立てて説明する力がついてきた。その一方で、相手を意識した発表ができるとは言い難い。そこで、より相手を意識して発表させるために「寸劇」に挑戦させることを通し、相手に伝わるように工夫して話す力を付けていきたい。

(3) 指導観

本単元では、第1学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項「ア(イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。」と「A 話すこと・聞くこと」

の「ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」を重点的な指導事項とする。そのために、「故事成語を寸劇にする」という言語活動を設定する。

まず、「矛盾」を読み、言葉の成り立ちや現在の使われ方を理解させる。同様に故事成語とは何かを理解させる。また、漢文特有のリズムを味わいながら、音読に親しませたい。

次に、他の故事成語について調べ、日常生活の中で当てはまる出来事を考えさせる。それを基にグループで簡単なシナリオを作り、グループごとに「寸劇」の形で発表させる。その際、相手を意識した発表になるよう、故事成語をより分かりやすく伝える工夫を考えさせたい。

表現する方法を考えることが難しい生徒もいると予想されるので、手立てとしてシナリオの例や効果的な身体表現の仕方の見本などを適宜示し、表現力を育んでいきたいと考える。また、発表し、評価し合うことで、表現方法の良さに気付き、自分の表現に役立てようとする態度も育てたい。

3. 単元の目標と評価規準

【関心・意欲・態度】

- ・ 故事成語に関心をもち、調べた言葉について、相手に分かるように表現しようとしている。

【話す・聞く能力】

- ・ 相手に分かるように話し方を工夫して発表している。(ウ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・ 「故事成語」というジャンルを知り、代表的なものについて成り立ちと意味を理解している。(1) ア (イ)

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
故事成語の意味や由来などに興味・関心を持っている。	相手に内容が分かるように話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などを工夫して発表している。	故事成語が古典に由来することについて理解している。

4. 指導計画 (5時間扱い、本時5/5時間)

	主な学習内容	学習活動における評価規準			
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第一時	単元の見通しをもち、学習計画を立てる。 「漢文」や「故事成語」について知る。 「矛盾」を繰り返し音読み、漢文特有のリズムを味わう。 「矛盾」の内容を捉える。	故事成語の意味や由来に興味関心を持っている。			進んで音読み、漢文特有のリズムを味わっている。
第二時	原文と書き下し文を比べ、漢文の訓読の仕方を知る。 「矛盾」が日常生活でどのように使われているか、身近な例を考える。			原文と書き下し文との違いを捉えるとともに、返り点など、訓読に必要な決まりを理解している。	音読みして漢文特有のリズムに親しむとともに、訓読の決まりを理解している。
第三時	故事成語の資料を読み、グループで話し合い、故事成語を一つ選ぶ。話し合いながら、台本を書く。		寸劇にする故事成語を選び、お互いの考えを生かして台本作りをしている。		
第四時	グループで役割分担を決めて、発表の練習をする。	グループで協力して、進んで発表の練習をしている。	相手に効果的に伝える方法を考えながら、練習をしている。		
第五時	故事成語を題材にした寸劇を発表する。 記述による自己評価、相互評価をする。	故事成語に関心をもち、調べた言葉について、相手に分かるように表現しようとしている。	相手に内容が分かるように話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などを工夫して発表している。		古典には様々な種類の作品があることを知っている。

5. 本時の指導

(1) 本時の目標

相手に内容が伝わるように工夫して故事成語を題材にした寸劇を発表することができる。

(2) 評価規準

視 点	おおむね満足できると判断できる状況	努力を要する生徒への支援
国語への関心・意欲・態度	故事成語に関心を持ち、調べた言葉について、相手に分かるように表現しようとしている。	他の生徒の発表の仕方を見て、自分の表現に生かすように促す。
話す・聞く能力	相手に内容が分かるように話し方を工夫して発表している。	他のグループの発表から相手に分かるような話し方の工夫について気付かせる。

(3) 研究との関わり

前時までにはグループでシナリオを作り、発表の練習を進めている。初めに、前時の振り返りシートを活用して、発表練習や発表のポイントなどについて確認をする。振り返りシートの生徒の記述を生かしたい。さらに、発表順の確認もする。評価のポイントについても、今までの学習を想起させ、一緒に確認をしたい。相互評価、自己評価ともに、ワークシートを配布し、評価を記入する形をとる。

【相互評価と自己評価の視点】

- ① 声の大きさ（聞き取りやすい大きさの声かどうか、
大事な部分をより大きな声で話すなど強調しているかどうか）
- ② 話す速さ（聞きやすい速度かどうか）
- ③ 間の取り方（効果的に間をとっているかどうか）
- ④ 故事成語の意味や成り立ちが伝わったか。

次に、グループごとの発表を行う。発表を聞く時間と評価を書く時間を分け、振り返りをする時間を保証したい。

最後に、振り返りシートを使って、仲間の発表の良さや自分がかんばった点を振り返らせたい。国語の授業だけでなく、日常生活で発表する場面でも活用できるようにしていきたい。

